

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：教育学科

資格：講師

氏名：宇野 里砂

研究分野	研究内容のキーワード
小児神経学、特別支援教育	特別支援教育、障害児医療、医療的ケア、運動発達遅滞、発達障害
学位	最終学歴
医学博士	大阪大学大学院 医学系研究科 神経生理学 博士課程卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. Power Point・動画を活用した授業	2014年～現在	
2. Power Pointを活用した授業	2010年2011年	
2 作成した教科書、教材		
1. 「肢体不自由児と教育」	2018年04月	ドキュメントセンター
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大阪人間科学大学（非常勤講師）	2018年04月～現在	「肢体不自由者の心理・生理・病理」（オムニバス）
2. 大阪行岡医療大学（非常勤講師）	2017年04月～現在	医療学部理学療法学科「発達障害論」
3. 兵庫県立大学看護学部（非常勤講師）	2017年04月～現在	「学校保健」（オムニバス）
4. 平成27年度「兵庫県子育て支援員研修（放課後児童コース）専門研修」講師	2016年	「子どもの生活面における対応」
5. 「兵庫県子育て支援員研修（地域保育コース）専門研修」講師	2016年～現在	「心肺蘇生法」実技講習
6. 梅花女子大学（非常勤講師）	2015年04月～現在	心理こども学部心理学科 「重複障害・LD等の心理・生理・病理」（オムニバス） 「知的障害の心理・生理・病理」（オムニバス）
7. 教員免許状更新講習「時代に向き合う教師力開発（主として幼小教員対象）」	2015年～現在	「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む）、カウンセリングマインドの必要性、てんかん、アナフィラキシー」
8. 兵庫県放課後児童支援事業「放課後児童支援員認定資格研修」	2015年～現在	「子どもの生活面における対応」
9. 滋賀医療技術専門学校（非常勤講師）	2010年2011年	理学療法学科・作業療法学科「小児科学」
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 小児慢性特定疾病指定医（豊中市）	2015年	
2. 日本小児科医会認定「子どもの心」相談医	2013年	
3. 産科医療補償制度診断医	2012年	
4. 障害者福祉法第15条第1項に規定する医師の指定	2010年	
5. 周産期・新生児医学会新生児蘇生法一次コース認定医	2009年	
6. 日本医師会認定産業医	2008年	
7. 大阪府医師会指定学校医	2008年	
8. 指定自立支援医療機関指定医	2008年	
9. 医師免許	1993年	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. ボイタ法Bコース修了	2016年	
2. PEARS Provider	2016年	
3. ボイタ法Aコース修了	2013年	
4. 第3回医師のための母乳育児支援セミナー修了	2007年	
5. ボトックス注100講習・実技セミナー修了	2007年	
6. ボイタ法医師講習会（診断編）修了	2007年	
7. ボイタ法医師講習会（治療編）修了	2006年	
8. ボバースコンセプト医師講習会修了	2005年	
4 その他		
1. 豊中市医療的ケア運営会議委員（文部科学賞委託）	2018年04月～現在	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
事業「学校における医療的ケア実施体制構築事業」)		
2. 武庫川女子大学 障がいのある学生支援委員会 専門員	2017年04月～現在	
3. 大阪府立茨木支援学校 医師講師	2016年04月～現在	
4. 豊中市保健所非常勤医師	2014年04月～現在	
5. 豊中市立しいの実学園小児科非常勤医師	2014年04月～現在	
6. 吹田保健所非常勤医師	2014年04月～現在	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

1 著書				
1. 障害児保育	共	2018年04月	晃洋書房	鶴宏史編著。 以下を執筆した。 第2部2章「肢体不自由児の理解と援助」 第2部8章「重症心身障害児の理解と援助」 第2部9章「併発しやすい疾病」 第7部2章「保健・医療における現状と課題」
2. 発達障害事典	共	2016年10月	丸善出版 日本LD学会編集	分担執筆。 発達障害の病因や薬効などの理解のために、以下を執筆した。 「神経系機能の発達」 「神経伝達物質」
3. 障害を持つ子どもたちのよりよい生活のために（改訂版）	共	2016年04月	大阪小児科医会	荒井洋，今石秀則，宇野里砂，柏木充，九鬼一郎，島川修一，田川哲三，田邊卓也，鳥邊泰久，永井利三郎，西田勝，最上友紀子。 肢体不自由児・発達障害児・発達遅滞児の医療・教育・福祉に関して、以下を執筆した。 「(1)身体と心の発達に関する問題—発達がおかしいと思ったときに」 「(3)福祉サービスの実際」 「(4)医療機関、教育機関について」
4. 障害児通所支援従事者ファーストステップ研修マニュアル作成および実施検証に関する研究：平成27年度総括・分担研究報告書：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野））	共	2016年03月		宇野里砂，永井利三郎，小野次朗。 障害児通所支援従事者に向けて、肢体不自由児および重症心身障害児に接するための研修マニュアルを作成した。
5. 教育学科への招待	共	2015年04月	武庫川女子大学出版部	PART II 「08障害児医療と教育」P.72-75. 肢体不自由児や発達障害児の運動や姿勢のパターンについて概説し、気になる子どもに出会ったときの対応について述べた。

2 学位論文				
1. 幼若ラット大脳視覚野における垂直及び水平シナプス伝達に対する脳由来神経栄養因子の選択的作用 Selective Action of Brain-Derived Neurotrophic Factor on Vertical and Horizontal Synaptic Transmission in the Developing Visual Cortex of the Rat.	単	2000年03月	大阪大学医学雑誌 52(3/4): 111-118 (査読有)	脳由来神経栄養因子は生後発達期の脳視覚野において、シナプス長期増強に関与しており、可塑的変化の素過程と考えられている。ホールセルパッチクランプ電極法を用いて、脳由来神経栄養因子は垂直方向のシナプス結合に選択的に作用していることを明らかにし、これにより、生後初期の大脳皮質におけるカラム形成の強化に関与していることが示唆された。

3 学術論文				
1. 後天性脳損傷を認める児童・生徒の生活実態に関するアンケート調査	共	2017年07月	大阪小児科医会会報. 182(2017): 28-33.	九鬼一郎，荒井洋，宇野里砂，柏木充，島川修一，田川哲三，田辺卓也，鳥邊泰久，永井利三郎，最上友紀子。 急性脳炎・脳症や頭部外傷など小児期に何らかの原因で脳損傷を認めた場合、記憶障害・注意障害などの高次脳機能障害を認め、学習面や日常生活に影響が出ることもあるが、実際に日常生活や学校生活でどのような困難を持つのかを含めて、養育者を対象とするアンケート調査を行い、家族の希望やニーズを調査し報告した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)
2. 特別支援学校教育実習指導の提言と展望 Issues and prospects in designs of special needs education school teaching practicum	共	2017年（投稿中）	学校教育センター年報，第3号，武庫川女子大学 (査読有)	中村明美，高井弘弥，橋詰和也，宇野里砂。 私立大学での特別支援学校教育実習について、過去5年間の実習学生数及び実習校の分布、実習学部等について集計し、過去2年間の実習報告書による学生の自己評価の記載内容を解析した。実習報告書の集計結果では、配属学部と自己評価には、実習全般および授業内容に関する分散分析において相関がみられた。自由記述による自己評価についてのコレスポネンダ分析の結果を加えて、実習指導の講義カリキ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
3. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2016年10月	日本小児科医学会会報. 52: 113 (査読有)	<p>ユラム構成と内容など実践力養成のための教育実習の在り方について提言を行った。 (集計・分析の結果から実習講義の現状と改善等について協議しまとめた)</p> <p>柏木充, 荒井洋, 宇野里砂, 九鬼一郎, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 鳥邊泰久, 永井利三郎, 最上友紀子. てんかんは肢体不自由児、知的障害や発達障害をもつ子どもたちに合併しやすい疾患である。小児期発症のてんかんでは、成人期以降も治療が必要な場合がある。成人への移行における患者側の希望や必要を調査し、適切なてんかん診療体制を築くための課題を検討した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)</p>
4. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2016年07月	脳と発達, 48(4): 271-276 (査読有)	<p>柏木充, 荒井洋, 宇野里砂, 九鬼一郎, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 鳥邊泰久, 永井利三郎, 最上友紀子. てんかんは肢体不自由児、知的障害や発達障害をもつ子どもたちに合併しやすい疾患である。小児期発症のてんかんでは、成人期以降も治療が必要な場合がある。成人への移行における患者側の希望や必要を調査し、適切なてんかん診療体制を築くための課題を検討した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)</p>
5. 後天性脳損傷を認める学童の生活実態に関するアンケート調査 (第1報)	共	2016年02月	日本小児科学会雑誌, 120(2): 230 (査読有)	<p>九鬼一郎, 荒井洋, 宇野里砂, 柏木充, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 鳥邊泰久, 永井利三郎, 最上友紀子. 外傷性脳損傷、けいれん重積性脳症など後天性脳損傷後に、生活や学習において困りごとのある小児の生活実態についてアンケート調査し報告した。後天性脳損傷による高次脳機能障害では、記憶障害や視覚認知障害など多岐にわたる生活上の困りごとが起こりうる。発達障害と類似した特徴もあるが後天性であることなどから周囲の気づきや理解を得られにくいこともある。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)</p>
6. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2014年05月	脳と発達. 46(Suppl.): S323 (査読有)	<p>柏木充, 荒井洋, 宇野里砂, 九鬼一郎, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 鳥邊泰久, 永井利三郎, 最上友紀子. てんかんは肢体不自由児、知的障害や発達障害をもつ子どもたちに合併しやすい疾患である。小児期発症のてんかんでは、成人期以降も治療が必要な場合がある。成人への移行における患者側の希望や必要を調査し、適切なてんかん診療体制を築くための課題を検討した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)</p>
7. 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2014年02月	日本小児科学会雑誌. 118(2): 239 (査読有)	<p>鳥邊泰久, 荒井洋, 今石秀則, 宇野里砂, 柏木充, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 永井利三郎, 西田勝. 大阪府救急告知病院リストより小児の入院病床をもつ61病院を選定し、平成24年10月に15項目にわたるアンケート調査を行い、肢体不自由児・重症心身障害児の小児在宅医療の現状について分析し報告した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)</p>
8. 在宅小児医療に取り組む(その9) 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2014年01月	大阪小児科医学会会報 168(2014):39-44	<p>鳥邊泰久, 荒井洋, 今石秀則, 宇野里砂, 柏木充, 島川修一, 田川哲三, 田邊卓也, 永井利三郎, 西田勝. 大阪府救急告知病院リストより小児の入院病床をもつ61病院を選定し、平成24年10月に15項目にわたるアンケート調査を行い、肢体不自由児・重症心身障害児の小児在宅医療の現状について分析し報告した。レスパイト入院を行ううえでの問題点をまとめて報告した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)</p>
9. 幼児期の発達障害児をもつ親のストレス評価	共	2012年	脳と発達 44(suppl): S357 (査読有)	<p>島川修一, 田辺卓也, 九鬼一郎, 柏木充, 宇野里砂, 鳥邊泰久, 荒井洋, 田川哲三, 今石秀則, 永井利三郎, 西田勝. 発達の遅れを持つ子どもの保護者には、定型発達児の保護者とは異なる困難さやストレスがあると思われる。また、子どもの年齢によってもそれは異なる。保護者が現実的に必要とする支援を目指し、経済や人的に限られた資源を有効に利用するための研究として、幼児期の保護者を対象に、父親・母親のそれぞれにストレス評価スケールを用いてアンケート調査を実施し検討した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)</p>
10. Survey of Japanese pediatricia	共	2011年10月	Pediatr. Int. 53(5):	Tanabe T., Tagawa T., Arai H., Imaishi H., Uno

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ns on vaccination of children with neurological disorders.			626-9 (査読有)	L., Tanaka J., Nagai T., Nishida M., Awaya Y., Maekawa K. 肢体不自由や知的障害、発達障害を含む神経疾患をもつ子どもでは、感染症を予防することの重要性に反して、予防接種による副反応への懸念から接種を差し控えるケースがみられることから、保護者へのアンケート調査を行い、実態を調査した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)
11. 神経疾患をもつ児の保護者に対する予防接種アンケート	共	2007年	脳と発達 39(suppl):S5207 (査読有)	田辺卓也, 田川哲三, 荒井洋, 今石秀則, 今北優子, 宇野里砂, 田中順子, 谷池雅子, 永井利三郎, 藪田玲子, 西田勝, 栗屋豊, 前川喜平. 肢体不自由や知的障害、発達障害を含む神経疾患をもつ子どもでは、感染症を予防することの重要性に反して、予防接種による副反応への懸念から接種を差し控えるケースがみられることから、保護者へのアンケート調査を行い、実態を調査した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)
12. Quantal analysis suggests presynaptic involvement in expression of neocortical short- and long-term depression.	共	1997年07月	Neuroscience 79(2):317-21 (査読有)	Torii, N., Tsumoto, T., Uno, L., Astrelin, A.V., Voronin, L.L. 長期増強 (long-term potentiation; LTP) と長期抑圧 (long-term depression; LTD) はシナプス可塑性の実験モデルとして知られる電気生理学的現象である。このメカニズムはこれまで海馬においてのみ分析されてきたが、新皮質である視覚野の薄片スライスを用いて、特定の条件刺激によっておこるシナプス後部の短期抑制および長期抑圧を細胞内電位記録し解析をおこなった。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)
13. Vitamin B6大量療法が著効した点頭てんかんの2例	共	1995年06月	大阪てんかん研究会雑誌. 6(1):41-46	宇野里砂, 和田芳郎, 真野利之, et al. 乳児期に発症し難治に経過する症例も含まれる点頭てんかんについては、ACTH療法の効果は認められているものの重篤な副作用も含まれるこの治療法以外の治療に期待される。そのひとつであるVitamin B6大量療法が著効した2例を報告した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)
14. Carbamazepine服用中に赤芽球癆を発生した1例	共	1995年01月	日本小児科学会雑誌. 99(1):124 (査読有)	宇野里砂, 板垣裕輔, 藤井史敏, 田川哲三, 隅清臣. てんかん治療薬として有用であるCarbamazepineの服用中に赤芽球癆を発生した1例を経験したので報告した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)
15. GH分泌不全を伴ったBartter症候群の1例	共	1995年	Pharma Medica 13(9):227-227, 1995 (査読有)	板垣裕輔, 藤井史敏, 宇野里砂, 田川哲三, 隅清臣. Bartter症候群は低カリウム血症, 代謝性アルカローシスなどを特徴とする先天性尿細管機能障害に伴う症候群であり、成長障害を認めることが多いが、GH分泌不全伴う症例を経験したので報告した。 (共同研究のため分担部分の抽出は困難)
16. 後天性脳損傷を認める学童の生活実態に関するアンケート調査 (第1報)				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 軽度知的障害と中等度難聴により言語発達遅滞を呈したと考えられる1症例	共	2017年10月18日～20日	第62回日本聴覚医学会総会・学術講演会	
2. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2016年06月11日	第27回日本小児科医学会総会フォーラム	
3. 後天性脳損傷を認める学童の生活実態に関するアンケート調査 (第1報)	共	2016年02月	日本小児科学会雑誌, 120巻2号, 230, 2016	
4. 成人期を迎える子どもをもつ保護者のてんかん診療についての認識	共	2015年05月	第57回日本小児神経学会	
5. 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2013年11月	大阪府医師会医学会総会	
6. 病院における障がいをもつ子どものレスパイト入院についての検討	共	2013年04月	第116回日本小児科学会	
7. 幼児期の発達障害児をもつ親のストレス評価	共	2012年05月	第54回日本小児神経学会	
8. てんかんなどの神経疾患児の予防接種に関する現状・意識調査	共	2008年09月	第55回日本小児保健学会	
9. 神経疾患をもつ児の保護者に対する予防接種アンケート	共	2007年07月	第49回日本小児神経学会	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
10. 重心児の療育の現状について	共	2006年03月	第39回日本小児神経科学会近畿地方会	
3. 総説				
1. 軽度知的障害の医学的定義と診断の状況と課題について	単	2016年02月	知的障害福祉研究「さぼーと」, 709: 11-13, 2016	乳幼児期・学童期・学生期とライフステージに合わせた診断と対応について、また、地域の教育・福祉などの関係機関同士の効率的な連携をふまえた治療・療育・支援の必要性について概説した。
2. 子どもの脳 視覚の発達 Child's brain. Development of visual sense.	共	1999年09月	Brain Med. 11(3): 233-239	宇野里砂, 津本忠治. 大脳視覚野ニューロンの発達と小児の視覚機能の発達について、電気生理学的研究の知見をもとに解説した。
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. (講演) 発達に課題や障害のある子どもへの支援1	単	2018年07月17日・7月30日	豊中市「発達支援・障害児支援者対象研修会」	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の集団のなかで、発達に課題のある子どもの見方と特徴の理解について ・自閉スペクトラム症の子どもたちについて事例と支援のアイディア 私立保育園・私立認定こども園等に勤務する主任・リーダーの保育士等のキャリアアップ研修 平成30年度大阪府内支援学校教員等によるたん吸引等の実施のための研修（特定の者対象） ・経管栄養等を必要とする重度障がい児・者等の障がい及び支援に関する講義 ・緊急時の対応及び危険防止に関する講義 竹本潔, 宇野里砂 学校看護師への高度医療的ケア指導 竹本潔, 宇野里砂. カフアシスト・蘇生バッグの実技講習
2. 芦屋市保育士キャリアアップ研修「乳児の発達に応じた保育内容」	単	2018年07月1日		
3. 芦屋市立大東保育所	単	2018年07月04日	職員研修	
4. (講師) 平成30年度大阪府内支援学校教員等によるたん吸引等の実施のための研修	単	2018年04月05日	大阪府教育庁	
5. (講演) 発達に遅れのあるこどもの理解と関わり方	単	2018年03月08日	しょうとく園（通園療育施設）	
6. 芦屋市立新浜保育所	単	2018年02月28日	障害児保育 職員研修	
7. 高度医療的ケア医師巡回指導	共	2018年02月16日	大阪府教育庁 平成29年度医療的ケア実施体制構築事業	
8. 看護師研修会	単	2018年01月18日	大阪府立茨木支援学校	
9. 芦屋市立緑保育所	単	2018年01月15日	障害児保育 職員研修	
10. (講演) 支援学校における医療的ケアについて	共	2018年01月09日	平成29年度 臨時技師（看護師）専門研修会	
11. 特別支援教育 園内研究会	単	2017年12月14日	芦屋市立宮川幼稚園	
12. (講演) 子どもの見方と支援のあり方	単	2017年12月03日	第13期FBMインストラクター養成講座	
13. 特別支援教育 園内研究会	単	2017年11月10日	芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園	
14. (講演) 芦屋市立打出保育所	単	2017年11月01日	芦屋市子育て推進課 芦屋市立保育所 障害児保育	
15. (講演) 冬に向けて 子どもと家族の健康を守ろう！	単	2017年10月24日	子育てひろば講習会	
16. (講演) 特別支援教育 園内研究会	単	2017年09月26日・2018年02月22日	芦屋市立小槌幼稚園	
17. (講演) 肢体不自由児・発達障害児などの運動発達と姿勢の発達	単	2017年09月08日	西宮市立西宮養護学校 特別支援教育研修会	
18. (講演) 呼吸と人工呼吸器	単	2017年09月04日	大阪府立茨木支援学校 医療的ケア研修会	
19. (講演) 運動発達を軸にみる子どもの発達と生活	単	2017年05月25日	芦屋市幼稚園・特別支援研修会	
20. (講演) 重症児の学校生活での呼吸・食事・姿勢のポイント	単	2016年10月28日	西宮養護学校 医療的ケア研修会	
21. (講演) 運動発達の要一体幹の支持性一	単	2016年10月16日	第12期 FBMインストラクター養成講座	
22. (講演) 学校生活で気をつけるべき身体のこと	単	2016年07月22日	大阪府立茨木支援学校 医療的ケア研修会	
23. (講演) 障がい者の身体の理解と関わり方	単	2015年10月25日	第11期 FBMインストラクター養成講座	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
24. (講演) 子どもたちへの関わりのポイントー子どものライフステージにあわせて	単	2015年03月03日	豊中市立しいの実学園職員研修	子どもの心身の発達、発育、健康、疾患について、保護者にむけて概説・執筆している。(毎月1回連載)(全73回)
25. (講演) 小児在宅医療児の医療ケアの実際	単	2015年02月26日	大阪府立吹田保健所地域における小児在宅医療支援ネットワーク構築事業「小児在宅医療児と家族への支援に関する勉強会」	
26. (講演) ちょっと気になる子どもたちへの対処法ー幼保のちからー	単	2015年02月06日	平成26年度 池田市公私立幼稚園振興協議会研修会	
27. (講演) 障害のある子どもとともに学ぶ	単	2015年02月04日	平成26年度高大連携事業(高2生対象出張講義)	
28. (連載執筆) 「りさ先生の小児科診察中」(月1回)	単	2011年12月～2018年3月	どりむ社 プンブンどりむ プンブンPartner	
29. (講演) 豊中市の運動発達遅滞児のフォロー・連携について	単	2008年03月	豊中市医師会学術講演	
30. (講演) 豊中市の運動障害を持つ児について	単	2008年02月	乳幼児健診従事者研修会	
6. 研究費の取得状況				
1. 障害児通所支援従事者ファーストステップ研修マニュアル作成および実施検証に関する研究		2015年04月01日	厚生労働省科学研究費 障害者対策総合研究事業(障害者政策総合研究事業(身体知的等障害分野))(H27-身体・知的-一般-004)	研究代表者

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年～現在	大阪小児科医会 理事
2. 2017年～現在	日本聴覚医学会
3. 2014年～2017年03月	日本特別ニーズ教育学会
4. 2014年～2017年03月	日本特殊教育学会
5. 2014年～現在	日本LD学会
6. 2007年～現在	日本小児科医会
7. 2007年～現在	日本脳性麻痺ボツリヌス療法研究会
8. 2007年～	日本ラクテーションコンサルタント協会
9. 2007年～現在	日本小児神経学会
10. 2006年～	Osaka Sleep Health Network
11. 2006年～現在	大阪小児科医会
12. 2006年～現在	大阪小児科医会 勤務医部会 障害児問題検討委員会
13. 2004年～現在	小児神経科学会近畿地方会
14. 2004年～現在	近畿てんかん研究会
15. 2004年～現在	日本医師会
16. 1996年～2017年03月	日本神経科学会
17. 1994年～現在	大阪てんかん研究会
18. 1993年～現在	日本小児科学会
19. ～現在	豊中市医師会 小児科医会 理事